

取組名称		家族で営む小さな茶園が実現させた日本初のオーガニック抹茶、人と環境を思う心は世界へ			団体設立後の経過年数	92年	
応募取組主体名称		いしかわ製茶	活動地域	愛知県を中心とする国内及び海外		応募取組の活動年数	58年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他						
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞						



取組の要旨

愛知県豊田市にて家族四人で営む小さな茶園いしかわ製茶。食の安全性と環境負荷低減にいち早く取り組み、抹茶農家として日本初の有機認証を取得。その後、周辺茶農家にも自身の栽培方法を惜しげもなく教授し地域全体の有機茶園化へと導く。現在も講演活動や視察受け入れを積極的に行いながら、世界へ向けた情報発信によりこれまでに15か国への輸出を果たし、自らも各国へ渡航し文化としての茶の魅力を伝え続けている。

実績の要旨

1960年代より環境や人へ配慮したお茶作りを模索、山間部を開拓して茶園で農薬を一切使わない栽培に挑戦し、オーガニックの概念が欧州より伝わると同時に取り組み、民間認証でも有機JAS認証でも抹茶農家で日本最初の取得を果たした。また周囲の茶農家にも認証取得を勧め、地域全体が有機茶園となった。オーガニック需要の高い海外へ展開するビジネスモデルを構築し、小さな農家でも大事を成し遂げられることを農業界だけに留まらず、学生などにも伝えている。

取組評価の要旨	環境への貢献	困難と言われた茶のオーガニック栽培を実現し、環境負荷軽減に繋がった。
	社会・経済への貢献	オーガニック需要の高い海外への展開もいち早く成し遂げ、業界の先鞭をつけている。
	地域資源の活用	茶の栽培には不向きとされた山間部の寒さを逆手に取り、農薬を使用しない栽培を実現。
	普及・汎用性	それまで農薬を使用していた周辺茶農家にも今後のオーガニック需要の増加を説き、苦心して編み出した自らの栽培方法を教え、地域全体を有機茶園化へ導いた。
	革新・ユニーク性	農薬を使用しない茶栽培、そして家族経営ながら輸出を成功させる、そのどちらも当初は周囲から嘲笑されるような取組であったが信念を持って成し遂げた頑固者。
	継続性	小さな農家が作り上げたオーガニック抹茶はその後、全国へ波及し現在では日本茶輸出の柱となりつつある

展望の要旨

家族で営む小さな茶園を次世代へ繋げるために地球にも人にも優しいお茶作り、そして社会作りを続けていきます。